

Ⅲ. 機能整備の方向性、諸条件等の調査・検討

III. 機能整備の方向性、諸条件等の調査・検討

1 現状分析

国際観光都市に相応しい With/After コロナの MICE を推進していくために必要となる要素を検討するため、昨今の MICE を取り巻く動向や他地域の取組を調査した。

(1) コロナ後の MICE のあり方の変化

観光庁「新型コロナウイルス収束後の MICE のあり方に関する調査等業務公開報告書」によれば、新型コロナウイルス感染症の世界的拡大に伴う社会経済環境の変化を受け、国際会議のあり方を規定する各要素の変化、対応への課題については、以下のように整理されている。

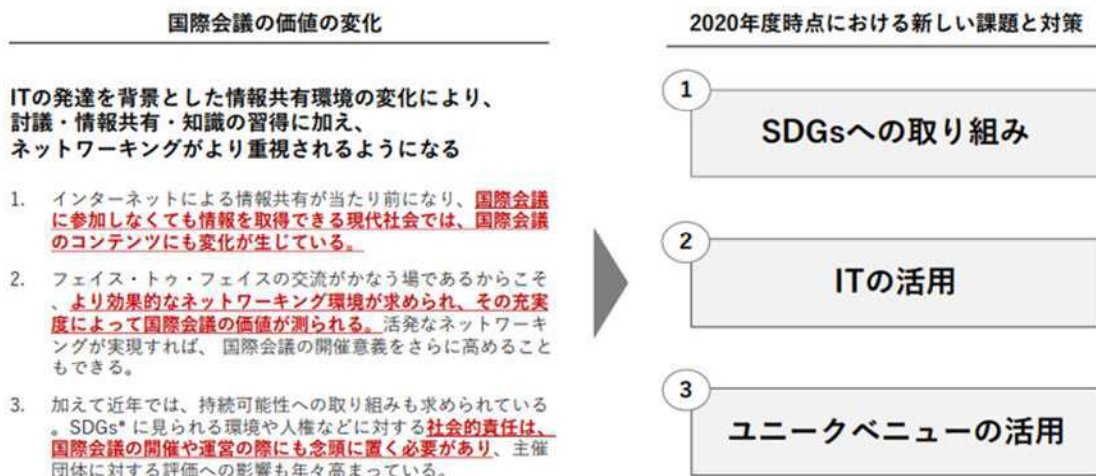
各要素	変化と課題	今後の方向性
<p>ヒト【主催者/参加者/MICE 人材】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 感染しない/させないことに対するリスク認識の高まり ・ 主催者の開催意欲自体は存在 ・ オンライン、ハイブリッド化による利便性と負荷 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 参加の柔軟性と集合・接触リスクの回避 ✓ オンライン上の参加者や登壇者との円滑な交流への対応 ・ MICE 人材に求められる技術の多様化。既存の語学力・運営に係る要件に加え、デジタル技術への理解と情報発信力が追加 ・ 多様なバックグラウンドや専門性、意欲のある人材の採用には、業界の重要性や国際会議の社会的意義の認知向上が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安心安全な開催に係る根拠の積み上げと綿密な情報発信 ・ 開催意義の追求と開催効果の最大化を求める主催者のためになる支援の実施 ・ オンライン化で得られる参加者データに基づく提供価値の最大化 ・ 人間工学的視点からの参加者の利便性や快適性の追求 ・ MICE 人材の戦略的な確保と育成 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 多様な業界から有能な人材を引き付けるための、業界のプレゼンスの向上。プレゼンス向上につながるような国際会議開催の重要性の発信 ✓ MICE 業界における、知識・スキルセットの体系化と共有の促進 ・ ICT 業界をはじめとする異業種との交流促進による業種間連携の促進、業界に関わる人材のデジタルリテラシーの底上げ

<p style="text-align: center;">モノ 【施設/設備 /開催地/ ツール /tech】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・会場、施設に対する主催者及び関連事業者からの、ハイブリッド開催や感染症拡大防止に係るサービス・機能の提供ニーズ ・十分な通信容量、回線、セキュリティ環境、音響・映像設備 ・感染拡大防止ガイドラインや既存法令の遵守、必要備品の調達と提供、管理体制の構築 ・開催地選定基準への影響の懸念、開催地全体の面的な安全性を確保するための受入環境整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症のガイドラインを活用した効果的・効率的な感染症対策の実行 ・開催地、PCO、施設、ICT事業者が連携した施設力の強化 <ul style="list-style-type: none"> ✓DX化に係る通信・設備要件、プラットフォームに係るスタンダードの構築 ✓ユニークベニューの活用、バリアフリー化と組み合わせた施設の魅力の向上 ・自治体、コンベンションビューローが一体となった面的な魅力の構築、受入れ環境整備の促進 ・自治体を中心とした MICE 誘致・開催に向けた計画の整備 ✓MICE開催都市としての自地域の魅力、あるべき姿の整理と共有化 ✓都市計画と連携した MICE 開催都市としての課題とその解決策の整理 ・オンラインプラットフォームの機能改善・開発によるオンライン上でのインフォーマルなコミュニケーションの場を創出する手法の開発・実装
---	--	--

<p style="text-align: center;">カネ 【収支構造/ リスクヘッ ジ/投資】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・収益構造の変化ハイブリッド開催における、対面・オンラインのダブルコストの常態化 ✓オンライン参加に係る参加費のあり方の変化 ✓オンライン開催に伴うスポンサーの確保の状況変化 ・キャンセルリスクの顕在化とキャンセル料・変更手数料の取り扱いに関する問題意識の拡大 ・情報発信：世論を考慮し積極的なPR等が難しい反面、手法を変えた能動的な発信が必要 ・自治体の開催支援：オンライン・ハイブリッド化に伴い、現地参加人数や宿泊数に基づく支援スキームが働かず、それらの催事を支援するスキームが必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン参加者の積極的な募集による収益の確保 ・リスク管理手法の実践 ✓リスクを予め整理し、ステークホルダーにおいてリスク発生時の対応策や役割の協議・ルール策定等を行う ✓キャンセル料規程等の見直し ✓保険商品の開発等も視野に入れた業界や MICE 開催都市が一丸となった危機管理対応体制の構築 ・業務改革の推進による効率的組織運営の実現 ✓ペーパーレス化、働き方改革の推進 ✓ICT 環境の整備と人材への投資 ・MICE 誘致・開催に係る補助制度の見直し
--	--	--

<p>コト</p> <p>【開催形態/ プログラム/ 持続可能性】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・セッションの合間で実現していた、偶然の出会い、インフォーマルなコミュニケーションという現地開催ならではの魅力喪失の危機 ・参加者の一体感醸成の難しさ ・オンライン参加者の耳目を一定時間集め続けられるような魅力的なプログラム開発と工夫の必要性 ・オンライン・ハイブリッド開催の常態化に伴う「開催地に足を運ぶ」ための理由付け難しさ ・多数の参加者を一つの場に集めることに対する地域住民の抵抗感 ・国際会議開催における持続可能性に対する意識の高まり 	<ul style="list-style-type: none"> ・開催目的に即した開催形態の提案と提供 ・デジタル技術を活用した上での、偶然の出会いを「必然的に」起こすための企画・運営手法の開発 ・VR、AR等の技術を活用したオンライン上でも楽しむことができるプログラムの開発、オンライン上での体験の充実 ・開催地に足を運んでみたいくなるような都市の魅力の発信、それに資するオンラインツールコンテンツ等の開発 ・感染症対策を徹底した上での、地域住民が国際会議に関わる場・プログラムの提供 ・レガシー効果含む開催メリットの最大化と開催「負荷」低減 ・「持続的な国際会議」実現のための継続的な取組
---	---	--

また、国際会議の開催や運営の際には、SDGs にみられる環境や人権等に対する社会的な責任を念頭に置く必要があり、持続可能性への取組が求められていることが謳われている。



■社会的な責任（＝サステナビリティ）の重要性

MICE の開催は、ヒトやモノがダイナミックに移動し、経済的・社会的に大きな効果を生み出す一方で環境負荷が高いことが課題となっていることから、サステナビリティに配慮した取組がより重要視される傾向にある。

日本政府観光局ウェブサイトによれば、我が国における MICE 分野のサステナビリティ対応として、「代替エネルギーの促進」、「自然の有効活用」、「文化の継承」、「多様で平等な社会の実現」、「クリーンな移動手段の実現」、「地産地消と地域活性」、「次世代へのレガシー」、「ガイドライン・評価制度」といった対応が進められている。

代替エネルギーの促進	日本では 2050 年のカーボンニュートラル達成に向け太陽光、風力、水力、水素やバイオマス等の再生可能エネルギーの導入を促進しています。中でも太陽光による発電量は世界第 3 位（2022 年）。電力の 100%クリーンエネルギー化を実現する愛知県国際展示場や、リサイクル率約 90%のパシフィコ横浜をはじめ各 MICE 施設でも、省エネルギー化や再生可能エネルギーの導入促進が図られています。
自然の有効活用	南北に細長い日本は、各地域の特性を活かして、自然が有効活用されています。札幌市では、冬期に降り積もった雪氷を保管し、夏季に冷房用の冷熱源として利用しています。福岡市内中心部に位置する国際会議場であるアクロス福岡等の施設では、ヒートアイランド緩和が期待できる屋上緑化が進められています。
文化の継承	日本は、時代の変化に適応しながら、独自の文化を大切に受け継いできました。1,200 年以上の歴史を誇る京都では、その伝統を肌で感じることができます。北海道のアイヌ文化や、沖縄の琉球文化等、各地に多彩な文化が継承されています。伝統を重んじながらも時代に合わせた変化を取り入れる文化は、創業 100 年以上の企業が世界最多であること等にも表れています。
多様で平等な社会の実現	多様性ある社会の実現に向け日本各地で様々な取組が行われています。大阪では LGBTQ 旅行者に向けた情報発信や、観光事業者等への研修を実施しています。岡山では、ムスリムへの対応が可能な宿泊施設や飲食店に対し、独自の認証を行っています。広島では、郷土料理のビーガン・ベジタリアン対応を進めるなど、日本各地で多様なニーズに対応し、多文化共生が推進されています。

<p>クリーンな移動手段</p>	<p>迅速、安全かつ時間に正確な日本の鉄道は日本全国を網羅しており、非常に便利な交通手段です。人口あたりの鉄道旅客輸送量においては、世界1位です（2017年）。各都市では、環境負荷を抑えた水素バスやLRTの導入、地域の事業者が連携したモビリティサービスの提供等、クリーンな公共交通機関の利用促進が図られています。</p>
<p>地産地消と地域活性</p>	<p>輸送に関わるCO2排出量を削減するため、地産地消は日本各地で盛んに進められています。千葉市では、市内産農畜産物を積極的に活用、販売する飲食店の登録制度を設ける等、生産者と消費者をつなぐ取組を行っています。多様な魚類が住む豊かな海に臨む富山県では、富山湾で獲れた魚介と県内産の米を利用した寿司を富山湾鮭としてブランド化。地産地消と観光資源化を両立させています。</p>
<p>次世代へのレガシー</p>	<p>イベント開催においては、レガシーをどのように残していくかが非常に重要です。横浜市では、レガシー創出の一環として、子どもたちが、最先端の技術や情報に触れられる講演やワークショップの併催を促す次世代育成事業が実施されています。MICE開催時に、市内の小学生から高校生までを対象にイベントを行った場合、市より開催経費の一部負担や広報支援が受けられます。</p>
<p>ガイドライン・評価制度</p>	<p>MICE開催においてサステナビリティに配慮したイベント運営が求められています。東京や沖縄では、MICE開催におけるサステナビリティガイドラインを作成し、具体的なアクションを促す事例を紹介しています。大阪では、MICEイベントでのSDGへの取組意識を高めるために、「SDGs for MICE 評価制度」を導入し、実践的な改善につなげています。</p>

また、観光庁「MICEの総消費額及び経済波及効果の算出に関する調査事業」では、現状実施されているサステナビリティの取組に加え、将来的に強化されることが予想される取組や、特に主催者ニーズが向上する可能性の高い取組に関する調査結果について、以下のとおり示されている。

[目下実施されているサステナビリティの取組]

- ・「環境」分野については、CO₂や廃棄物の削減を始め比較的長い歴史があり、取組事例も多い。その手段としては、省エネ機器の採用、再生可能エネルギーの採用、リサイクル商品の活用、カーボンフットプリントによるCO₂の見える化等が挙げられる。
- ・人権、公平性では、女性管理職比率の目標設定、ジェンダーバランスのとれたパネルディスカッション、多様性を意識した食事メニュー等がある。
- ・RFPにおいて、都市のサステナビリティへの取組が求められるようになっており、Bid Paperにそれを記載することは、もはや必須条件となりつつある。

[将来的に強化されることが予想されるサステナビリティの取組や、ニーズが向上する可能性の高い取組]

- ・CO₂排出量に関しては、科学的な根拠をもった算出方法が求められ始めており、それに対応する計測ツールが必要となる。
- ・主催者は、より一層の廃棄物削減に重きをおいており、必要以上の発注をしない、耐用年数が長くリサイクル可能な資材を使うなどの指針も出ている。
- ・環境対応は、自社だけでなくサプライヤー等を含めたバリューチェーンでの取組が要求され始めており、将来はローカルコミュニティとの協業が必須である。
- ・人権・ジェンダー等のCSR的な要求が高まってきているが、日本ではまだ意識が低い分野であり、今後は必須の対応項目となるであろう。
- ・SDGsの実現は、より一層の要求事項となる。

[取組に掛かるコスト構造やその波及先等]

- ・コストとの関係では、コストを掛けてでも実施する価値がある事項への取組が多い。しかし、省エネや廃棄物削減等による確実なコスト削減に加え、投資家要求対応という観点からのコストの考え方が出てくると思われる。
- ・Scope 3 (GHG プロトコル) を始め、自社だけでなくサプライチェーンでの対応が要求され始めているので、サプライヤーの選択基準にサステナビリティの要素を入れ、共通目標を共有・管理する必要がある。

[結論]

- ・日本ではサステナビリティ・環境対応について、短期的な経済的合理性を求める傾向があるが、海外、特に欧州の主催者ニーズに応えるためには、長期的な視野を持つことが重要である。省エネや廃棄物処理量の削減によるコストダウンに加え、サステナビリティに対応しなかった場合の将来の逸出利益を分析する仕組み

があるとよい。

- ・主催者（主に国際本部）は、「地産地消」や「バリューチェーン」での取組を期待しているため、地元政府・企業との連携を深めて地域として提供できるモノ・コトを仕込み、共通目標の設定やサプライヤー向けのチェックリスト等を策定・活用することが有用である。

このように、MICE 分野においてサステナビリティに関する取組の必要性が高まっていることに伴い、日本国内の主要な MICE 開催都市においてサステナビリティへの取組が進められている。

このため、日本国内の主要な MICE 開催都市におけるサステナビリティに関する取組について調査を行った。

都市名	サステナビリティに関する戦略・計画並びに取組
札幌市	<p>[SDGs 戦略]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・札幌市 SDGs 未来都市計画（2021～2023） ・第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン（2022～2031） ・札幌市気候変動対策行動計画 <p>[サステナビリティに関する取組]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境に配慮した大型コンベンション施設 ・カーボンオフセットプログラムを通じた MICE 開催による環境負荷軽減 ・レガシーに紐づくユニークベニュー ・雪氷熱利用を通じた CO2 削減への貢献 ・MICE を通じた地域貢献活動 ・食料自給率日本一の都市で進む農林水産業の産官学連携研究 ・雄大な自然と豊かな文化を軸としたアドベンチャートラベル
仙台市	<p>[SDGs 戦略]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仙台市 SDGs 未来都市計画 ・ふるさとの杜再生プロジェクト ・仙台市地球温暖化対策推進計画（2021～2030） <p>[サステナビリティに関する取組]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「防災環境都市」としての人材育成や国際貢献 ・多言語による防災啓発と災害時外国人支援の体制整備 ・多文化共生のための地域づくり ・公共交通による国際会議場への移動、観光地の訪問・周遊促進 ・MICE 参加者向けのサステナブルな体験メニュー ・サステナビリティに配慮した MICE 施設 ・仙台独自の環境配慮事業者認定
千葉県	<p>[SDGs 戦略]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・千葉県総合計画

	<ul style="list-style-type: none"> ・二酸化炭素排出量実質ゼロ宣言 ・千葉県内の主要 MICE 開催都市の特徴を活かしたサステナブルな取組例 <p>[サステナビリティに関する取組]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ちば SDGs パートナー登録制度とちば SDGs 推進ネットワーク ・魅力ある千葉の産物と郷土料理の提供 ・伝統芸能を活かしたアトラクションの提供 ・コンベンション施設におけるサステナブルな取組 ・千葉市：自動運転モビリティの導入による移動負担の軽減 ・成田市：環境にやさしい空港の実現を見据えた取組 ・木更津市：SDGs を学ぶ教育プログラムの提供 ・浦安市：ゼロカーボンシティの実現に向けたカーボンオフセット協定
東京都	<p>[SDGs 戦略]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「未来の東京」戦略 ・ゼロエミッション東京戦略 <p>[サステナビリティに関する取組]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「TOKYO MICE サステナビリティガイドライン」の策定 ・「Sustainability Experenve in Tokyo for International Conferences－東京 SDGs 体験コンテンツガイド」の発行 ・東京都内各 DMO での取組 ・ホテルでの取組
横浜市	<p>[SDGs 戦略]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横浜市中期計画（2022～2025） ・横浜みどりアップ計画 ・横浜市 SDGs 未来都市計画（2021～2023） <p>[サステナビリティに関する取組]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヨコハマ SDGs デザインセンターによるイノベーション創出 ・横浜市 SDGs 認証制度“Y-SDGs” ・サステナブルな大規模 MICE 施設パシフィコ横浜 ・サステナブルな食を提供する市内ホテル ・その他サプライヤーのサステナビリティの取組 ・宮大工によるモバイル茶室「無名庵」 ・次世代育成事業
富山県	<p>[SDGs 戦略]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・富山県第 2 期 SDGs 未来都市計画 ・とやまゼロカーボン推進宣言 <p>[サステナビリティに関する取組]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「富山物質循環フレームワーク」の実現に向けた「とやまモデル」の確立

	<ul style="list-style-type: none"> ・富山市：コンパクトシティ戦略の推進 ・南砺市：エコビレッジ構想の推進 ・持続可能な滞在が可能な ANA クラウンプラザホテル富山 ・県内各所で提供される持続可能なプログラム
名古屋市	<p>[SDGs 戦略]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SDGs 未来都市計画 ・脱炭素・低炭素社会実現に向けた計画 <p>[サステナビリティに関する取組]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいちスタートアップ・エコシステムの形成 ・地元大学との連携による持続的なオープンイノベーション ・愛知県国際展示場における持続可能な運営 ・産学官民の連携による持続可能な地域・社会づくり ・地域の SDGs 認証の最高ランク認定を受けている名古屋国際会議場 ・名古屋国際会議場における地域活性化と地元人材の育成 ・地域資源の魅力発信のための人材育成等を通じた受入環境整備 ・ものづくり産業の集積を活かした産業観光コンテンツ
京都市	<p>[SDGs 戦略]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都市 SDGs 未来都市計画 ・ゼロカーボンシティ宣言 <p>[サステナビリティに関する取組]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「DO YOU KYOTO?クレジット制度」を中心としたカーボンオフセットの促進 ・公共交通の高い利便性を活かしたコンベンションパス販売 ・持続可能な観光実現に向けた行動基準「京都観光モラル」の策定 ・「京都 MICE 基金」の運営 ・京都の歴史・伝統継承に資する「京都らしい MICE 開催支援補助制度」 ・歴史・伝統に裏打ちされた多様なユニークベニュー ・5つのテーマで特別な体験を提供するエクスカージョンメニュー ・「MICE 向け京都伝統産業製品貸出制度」の導入
大阪市	<p>[SDGs 戦略]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SDGs 未来都市計画 ・Osaka SDGs ビジョン ・ゼロカーボンシティ宣言 <p>[サステナビリティに関する取組]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」の実現に向けた取組 ・LGBTQ 旅行者の受け入れに向けた取組 ・SDGs for MICE 評価制度の開始 ・マイボトルと水道水でプラと CO2 削減に貢献 ・文化芸術観光の推進組織を発足 ・大阪独自の伝統・文化を活かしたプログラム提供

	<ul style="list-style-type: none"> ・ MICE 施設やホテルにおける環境配慮の取組
神戸市	<p>[SDGs 戦略]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ KOBE2025 ビジョン ・ 神戸市 2050 年カーボンニュートラル宣言 <p>[サステナビリティに関する取組]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 震災を乗り越え根付いたまち全体の防災活動 ・ 食都神戸の伝統的食文化の継承・魅力発信 ・ 脱炭素化に向けた取組 ・ 農業における資源循環の取組 ・ 日本の歴史・文化の魅力を体感できる文化財・ミュージアム ・ 海洋資源と日本の食文化を守るための連携協定 ・ 異国情緒溢れる街中で多様な歴史・文化を体感
岡山市	<p>[SDGs 戦略]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 岡山市 SDGs 未来都市計画 ・ 2050 年二酸化炭素排出実質ゼロ宣言 <p>[サステナビリティに関する取組]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域が一体となって取り組む「岡山 ESD プロジェクト」 ・ 市内の学校における ESD 活動 ・ 岡山の歴史・文化を体験できるユニークベニュー ・ SDGs 体感モニターツアーの実施 ・ ムスリムにやさしい観光地の整備 ・ 岡山の特産品を学び・味わえるぶどう研究所 ・ 牡蠣の殻を有効活用した地域循環型農産物の提供 ・ 市内の代表的なホテルにおけるサステナビリティの取組
広島市	<p>[SDGs 戦略]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 広島市総合計画 ・ 広島市環境基本計画 <p>[サステナビリティに関する取組]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に向けた取組 ・ ダイバーシティ&インクルージョンの推進 ・ 地元の伝統芸能を活用したアトラクションの提供 ・ 水の都ひろしまにふさわしい水辺を活かしたまちづくり ・ グランドプリンスホテル広島における環境配慮や平和への取組 ・ 環境と人にやさしい公共交通の充実
北九州市	<p>[SDGs 戦略]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 環境先進都市としての高い評価 ・ 第 2 期「北九州市 SDGs 未来都市計画」 ・ ゼロカーボンシティ宣言 <p>[サステナビリティに関する取組]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 環境経営目標に基づくサステナビリティの取組の推進

	<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギーの地産地消を通じた循環型社会への貢献 ・公共交通ネットワークを活かしたコンパクトな国際会議の開催 ・「紙循環システムの構築」と「新たな雇用の創出」の支援 ・産業観光や環境学習機会の提供 ・資源の再利用による MICE 商品開発 ・SDGs プロダクトの充実
福岡市	<p>[SDGs 戦略]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「第9次福岡市基本計画」・「福岡市地球温暖化対策実行計画」 ・福岡市 Well-being&SDGs 登録制度 ・ゼロカーボンシティ宣言 <p>[サステナビリティに関する取組]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・再生可能エネルギーや水素の積極利用 ・Fukuoka Growth Next をはじめとするスタートアップ支援 ・花づくりをはじめとする受入環境の整備 ・自然との共生を具現化する国際会議場「アクロス福岡」 ・旅行者や地域住民にとって利便性の高いモビリティサービスの提供 ・アジア太平洋都市サミットをはじめとする SDGs 達成に向けた国際連携 ・地域の歴史・伝統に根差したユニークベニューとアトラクション ・サステナブルツーリズムの推進
沖縄県	<p>[SDGs 戦略]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沖縄県 SDGs 未来都市計画 ・沖縄県クリーンエネルギー・イニシアティブ <p>[サステナビリティに関する取組]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「沖縄 MICE 開催におけるサステナビリティガイドライン」の策定 ・森を学べる世界自然遺産やんばるのガイドツアー ・沖縄の自然・文化を学ぶユニーク体験の提供 ・おきなわ美ら島カーボンクレジットによる CO2 排出量削減の推進 ・OIST が開催する多彩な習慣や宗教に対応した国際会議 ・沖縄のリゾートホテルの SDGs への取組 ・沖縄コングレによるサステナブルな会議開催への寄与

(出典) Sustainable Japan:Pioneering destinations with global appeal
https://mice.jnto.go.jp/assets/docs/manuals/Sustainable%20Japan_japanese.pdf

また、国際会議の開催件数で実績を有し、特徴的な取組を行っている都市として、東京都、大阪府・大阪市、札幌市、神戸市の取組内容について更なる調査を行った。

<東京都>

東京都が推進する MICE は、東京都 MICE 誘致戦略に基づき進められており、東京都 MICE テクノロジー導入ガイドライン、サステナブルガイドラインが策定されている。

■東京都 MICE 誘致戦略

戦略策定の意義	<ul style="list-style-type: none"> ● 海外競合都市との誘致競争に勝ち抜くためには、東京の持つ様々な強みを生かすと同時に国内他都市とも連携しながら、戦略的に誘致活動を展開することが必要 ● こうした視点に立ち、今後、都が積極的に誘致を進めるべき重点分野を明確化し、MICE 誘致に向けた取組の方向性を示す「東京都 MICE 誘致戦略」を策定 ● 今後、本戦略に基づく M I C E 誘致施策を着実に実施していくことで、MICE 分野における東京の揺るぎないプレゼンスの確立を目指す
現状	<ul style="list-style-type: none"> ● MICE の開催は、産業力を強化し、高い経済波及効果をもたらすなど、都市の競争力強化に資することから、国際的な誘致競争が激化 ● 国際会議はこれまで欧米諸国での開催が多数を占めていたが、経済発展が進むアジアのシェアがこの 10 年で 2 倍以上に拡大 ● 東京の国際会議開催件数は増加傾向にあるものの、依然として海外競合都市のシンガポールやソウル等に後れを取っている
課題	<ul style="list-style-type: none"> ● グローバル対応の遅れ ● 東京が有するポテンシャルの活用が不十分 ● 誘致・開催を効果的に行う連携体制の不足
目標	概ね 10 年後（2024 年頃）世界トップ 3 に入る年間 330 件の国際会議の開催
重点分野	<ul style="list-style-type: none"> ● 国際会議（C） ● 企業系会議（M） ● 報奨・研修旅行（I）
主な施策展開	<ul style="list-style-type: none"> ● グローバル対応の強化 ● 東京の強みや資源の有効活用 ● 多様な関係主体との連携促進 ● 国内他都市との協力体制の構築

（出典）東京都 MICE 誘致戦略～揺るぎないプレゼンスの確立を目指して～

<https://www.sangyo-rodo.metro.tokyo.lg.jp/tourism/mice/pdf/150903gaiyou.pdf>

<https://www.sangyo-rodo.metro.tokyo.lg.jp/tourism/mice/>

■東京都 MICE テクノロジー導入ガイドライン

	テクノロジーの概要
プログラム一元管理	<ul style="list-style-type: none"> ・学会の事務局業務から特設サイト開設までをワンパッケージにした、学会の一元管理システム ・学会に係るヒトやコンテンツの管理（各種依頼、受領、承認等）を、クラウド上で定型処理可能なため、手作業によるミスの最小化、工数削減が可能 ・ハイブリッド開催に向けたオンライン会場構築の機能も具備しており、そのコスト（金銭・工数）も削減可能
顔認証入場管理	<ul style="list-style-type: none"> ・顔認証を活用した、セキュアかつ手ぶら利用可能なセキュリティゲートを実現 ・登録した顔情報にて、入場、出展ブースでのチェックイン等複数の利用シーンで顔認証が可能 ・本テクノロジーを導入することで、主催者は、入場管理や訪問履歴ログによる情報提供業務を効率化することが可能
遠隔案内	<ul style="list-style-type: none"> ・会場受付やその周辺において、サイネージを搭載した自走型ロボットで参加者へ情報掲示を行ったり、遠隔オペレーターと参加者間の双方向の会話を通じた各種問合せ対応を行うことが可能 ・会場内に複数設置した場合でも、オペレーターは遠隔で各端末に接続することになるため、多言語対応のスタッフ等の人数を削減するなど、効率的なスタッフ配置を検討することが可能
AI 案内	<ul style="list-style-type: none"> ・サイネージによる施設・観光案内を実現し、インフォメーションの省人化に寄与 ・アバターが案内を実施、簡単な QA は AI が回答し、難しいものは遠隔による有人対応が可能
3D 表示システム	<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン登壇者をリアル空間に立体視投影することが可能 ・海外の著名登壇者や授賞者を目の前に登場させることで、臨場感のあるステージを構築 ・バーチャルキャラクターの3次元化も可能であり、多彩なステージを実現
音声多言語化・文字化	<ul style="list-style-type: none"> ・通訳・字幕のサービスが一体に！ユニバーサルデザイン・SDGs 対応を簡単に実現 ・シーンや予算に合わせて、言語数、通訳者派遣か AI の自動通訳か、オンサイトかリモートかなど、柔軟に選べる

	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模イベントでも参加者のスマホが活用でき専用機の貸出不要！With コロナ時代に安心して使える
展示会場誘導ロボット	<ul style="list-style-type: none"> ・会場内において、自律移動型ロボットを活用することで、会場内各所への誘導案内を行うことが可能 ・予めロボットに走行ルートを学習させれば、障害物や人を避けて、安全に目的地まで移動することが可能 ・会場スタッフの案内業務の工数圧縮ができるため、他業務への工数振り分けが可能
混雑状況可視化	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットワークカメラの映像から人の頭部や全身を検知・認識し、リアルタイムで対象エリアの混雑状況を計測。 ・各エリアの混雑状況をリアルタイムに把握できるため、感染症対策として来場者の誘導等に活用可能 ・ディスプレイやサイネージ等と連携も容易であり、喫煙所、休憩所の混雑状況の告知、無人での誘導も可能
人流解析	<ul style="list-style-type: none"> ・電子タグ、ビーコン等の無線技術を利用し、VIP や来場者等の行動履歴を把握することができる技術 <p><1. Wi-Fi プローブ></p> <p>Wi-Fi プローブ (Wi-Fi 対応のスマートフォン等が周辺のアクセスポイントを検索するために発信される信号) の情報を用いて、リアルタイムで会場内の来場者の人数・混雑状況の把握が可能。主催者が入場制御等の対応を実施するための判断材料として活用することに期待。また同一のスマートフォン端末が複数のアクセスポイントで検知されることで回遊状況や滞在時間の分析が可能であり、ブース配置や案内の検討が可能となる</p> <p><2. Bluetooth ベースの高精度測位技術 (Quuppa) ></p> <p>会場全体あるいはブースの天井等に「ロケーター」を複数設置しておけば、「専用タグ」を持った人やもののブースや会場内での移動状況を捕捉可能。そのため、ブースや会場内での展示物やスタッフ配置のオペレーション改善の検討材料として活用することに期待</p>
メタバース展示場	<ul style="list-style-type: none"> ・専門知識不要でお手軽にリアル会場のような展示空間をメタバース (3D) 上に構築可能 ・出展者と参加者とのコミュニケーションや参加者による自由な回遊等、臨場感のある体験を提供可能 ・リアル会場への来場が難しい参加者もリアルタイム参加可能で、地理的制約のないイベントを開催可能
遠隔商談	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者は PC の web ブラウザから 5G 環境等に設置されたオンライン操作可能なテレプレゼンスアバターロボット (テレロボ) を介して、遠隔から展示会へ来場可能

	<p>(インストール不要、専用 URL を配布)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遠隔来場者はテレロボや 360 度映像体験を介して会場内を見学や周遊し、出展者との商談を実施 ・これまで取りこぼしていた VIP 来場者等に向けた集客アプローチ方法が増え、出展者満足度向上に寄与
XR プラットフォーム 交流	<ul style="list-style-type: none"> ・リアル参加者とオンライン参加者（アバター）の位置情報を共有し、それぞれの空間でリアルタイムに行動を反映 ・アバターモーションや感情アイコン、チャット等でコミュニケーションが可能 ・リアル参加者目線の体験（映像や音声 等）をオンライン参加者に共有でき、体験価値の向上に寄与
オンライン・リアル間の コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・360 度高画質の映像・音声を、インターネットを介して送受信できるプラットフォーム ・オンライン参加者が、リアル会場内を回遊したり、リアルのブースで臨場感ある商談を行うこと等が可能 ・チャット・投票ツール連携で、セミナー中リアルタイムでの投票・質疑等の双方向コミュニケーションが可能
MaaS プラットフォーム	<ul style="list-style-type: none"> ・国内外から東京を訪れる MICE 参加者が、スマホ 1 台で東京滞在を快適に、満喫できる観光 DX サービス ・MICE ホームページ内に、イベント前後の観光・移動等の情報検索及び予約決済機能をワンストップで提供できるリンクが設置される ・開催後、データベースに蓄積された参加者の行動・購買データ等を匿名化して分析することで、次回開催に向けて活用可能なフィードバックが得られる
空間演出	<ul style="list-style-type: none"> ・ぬれ感を感じにくい極微細シルキーファインミストとレーザー装置による映像演出、空間音響演出を組み合わせることで、これまでにないおもてなしを提供 ・リラックス空間を参加者に提供することで、会議や催し前の緊張を和らげる場、コミュニケーションの場として活用可能 ・上記リラックス空間自体が周囲からみた美しいオブジェとして機能することでにぎわい創出にも貢献

(出典) TOKYO MICE テクノロジー導入ガイドライン

https://businesseventstokyo.org/assets/pdf/resources/Tokyo_MICE_technology_guidelines.pdf

■サステナブルガイドライン（東京都）

東京都がMICE主催者や都内の関連事業者を対象としたMICEのサステナビリティに関するガイドラインで、ISO20121に対応した世界水準のガイドラインである。同ガイドラインに掲載された項目を以下に示す。

分類	取組例
管理と教育	持続可能性に配慮した運営や経営を目指し、運営責任者や経営層の理解を得ている
	持続可能性に配慮した運営や経営を目指し、運営責任者や経営層のメッセージまたはコミットメントがある
	持続可能性に配慮した運営や経営に関する方針が文書化されている
	持続可能性に配慮した運営や経営方針を継続的に実施・点検・見直しするための体制がある
	持続可能性に配慮する目的や意義を定着させるための教育方針や計画がある
	マネジメントシステム（ISO20121・ISO14001・エコアクション21等）を導入している、または導入の準備を進めている
	条例に従い受動喫煙対策が用意されている（例：東京都受動喫煙防止条例等）
	関係者・従業員を対象に、持続可能性への配慮を啓発する研修や表彰制度等がある
	臨時スタッフを雇用する場合にも持続可能性への配慮について教育を行う
	国内外から訪れる参加者（来場者）に適切に対応するための倫理規範・ダイバーシティについての教育を関係者・従業員に対して行う
	祈禱室・スペースの設置等、宗教的慣習に臨機応変に対応する
	持続可能性に配慮した取組の内容を報告書にまとめ、国内外へ発信する
	地域の製品やサービスの優先調達について情報発信する
	ハラールやベジタリアン等、食に関する制限に配慮し、使用食材や調理方法の表示を行う
	調達
関係者・従業員に対して、持続可能性への配慮に関する方針・体制・目標・取組が情報提供されている	
案内表示等は、日本語以外でも理解可能な他言語やアイコンで表記する	
持続可能性に配慮した物品やサービスを優先して調達する方針がある	
持続可能性に配慮した物品やサービスを優先して調達するための数値目標がある	
物品・サービスの提供事業者が持続可能性に配慮した調達を行っているか確認する	
物品・サービスの提供事業者の選定において、持続可能な取組を評価する項	

分類	取組例	
	目がある	
	調達物品は環境等の持続可能性に配慮したものを選ぶ	
	環境等の持続可能性に配慮したホテルを選ぶ	
	環境に配慮した車両（低公害・低燃費）等を導入している	
	ゼロエミッション・ビークルを導入している	
	展示会等で使用する木材は、適切に管理された森林の木材を優先する	
	エコバッグ・ノベルティ・名札・ストラップ等については、再生材の利用やリサイクル性に配慮したものを選ぶ	
	食品（生鮮・加工）は持続可能性に配慮したものを優先する	
	食材について、地産地消の調達方針がある	
	地産地消の食材を選択する	
	電力契約は再生可能エネルギーを優先する	
	エネルギーと水	節電・省エネ・節水等に配慮した方針や計画がある
		エネルギー使用量や水使用量の数値の把握と見直しを行う
会場周辺の移動において環境負荷の少ない開催地を選ぶ		
メイン会場からレセプション等の会場への移動は環境負荷の少ない方法を選ぶ		
飲料水の提供は、持続可能性に配慮した方法で行う		
交通アクセスは、最寄りの公共交通機関やシェアリングエコノミー型サービスを紹介する		
節電・省エネ・節水型の機器の導入や雨水利用をしている		
節電・省エネ・節水等に配慮している会場・ホテル・飲食・輸送事業者を優先して選ぶ		
停車・駐車中はアイドリングストップを実施する		
利用していない部屋・スペースは、空調・照明を使用しない		
建築物を対象とした環境配慮型の認証制度を取得している、または取得に向け取組んでいる		
廃棄物	廃棄物の削減について方針や計画がある	
	関係者の協力を得て、廃棄物量の把握に努める	
	廃棄物削減等を実践する会場やホテル、飲食を優先して選ぶ	
	リサイクルを促進するため分別ゴミ箱を設置している	
	分別ゴミ箱は、日本語以外でも理解可能な他言語やアイコンで表記する	
	会場における情報提供は電子化を促進する	
	電子化による情報入手を促進するため利用可能な通信設備の導入を行う	
	フードロスを減らすための取組を行っている会場を優先的に選ぶ	
	フードロスを減らすための配慮をする	
	展示ブースの設営については廃棄物を減らすための取組を行う	

分類	取組例
	利用者が必要とするアメニティについて選択制を採用する
	連泊するゲストには、タオルやシーツの交換を控える等の協力依頼を行う
	名札・ストラップ等は回収し、再利用を行う
	使い捨ての食器・トレイ・割り箸等については使用を減らすための取組を行う
	プラスチック製品の使用を減らすための取組を行う
コミュニティ (地域) 社会	地域への貢献、レガシーに関する方針や計画がある
	持続可能性に配慮した運営や経営について、地域への情報発信を行う
	アトラクションやパフォーマンス等は、地域の魅力を伝えるものを優先して選ぶ
	イベントの開催時に地域住民を対象とした参加メニューを用意する
	参加者へのギフトやノベルティ等は、地域の魅力を伝えるものを優先して選ぶ
	地域への寄付や寄贈、支援等を行う
	参加者が地域を理解するプログラムを優先的に選ぶ
	ユニバーサルデザイン向上の取組を行う ダイバーシティを尊重した雇用を行う

(出典) TOKYO MICEサステナビリティガイドライン 持続可能なMICE
開催に向けて

https://businesseventstokyo.org/assets/pdf/resources/TOKYO_Sustainability_Guidelines_Japanese.pdf

＜大阪府・大阪市＞

大阪府・大阪市は、2023年3月に策定した「大阪 MICE 誘致戦略」において、取組期間を2023年度から10年間とする MICE 誘致戦略を打ち出し、新型コロナウイルス感染症の収束に伴う MICE 需要の本格的な回復も意識した各種取組方針を示している。

以降では、今後の MICE 誘致に向け、当該 MICE 誘致戦略で想定されている取組のあり方を概括的に整理する。

■アフターコロナ関連の動向

当該戦略では、アフターコロナ特有の事柄として、『「バーチャル」から「リアル」まで多様な交流環境づくりを進める』という取組の方向性を掲げ、以下のような取組が想定されている。

- 新型コロナウイルス感染症の状況等をふまえ、ICT を活用したオンライン会議やバーチャルイベント等、MICE のデジタルシフトに対応した受入環境の充実
- 国内外から人々が集い実参集する MICE (=リアル MICE) の需要を把握。MICE 参加者（企業、大学・研究機関、学会等）が求める対面による交流環境の提供

2023年3月時点で、少なくとも国内における新型コロナウイルス感染症の状況は完全に収束したとは言い切れない状況であったものの、国外状況も踏まえ MICE の「デジタルシフト」を今後10年間の取組の方向性の1つとして位置付けていることに関しては、留意しておくべき点と捉えられる。

加えて、デジタルシフトに関しては、「オンラインやハイブリッド開催に対応した施設の機能強化（ICT 環境等）」や「SNS や WEB を活用したデジタルマーケティングの強化」、「MaaS やスマートモビリティ等、分散立地する施設間の移動の円滑化に向けた新技術の実証・活用」、「MICE のデジタルシフトに対応できる人材の確保・育成」といった施策として具体的に言及され、MICE との関係性を意識したデジタル関連施策の推進が目指されている状況である。

■その他新たな MICE 施策の動向

アフターコロナに関わらない全般的な特徴としては、大阪が強みとポテンシャルを有する重点分野として、「ライフサイエンス（メディカル、ヘルスケア、創薬）」、「ものづくり」、「環境・エネルギー」、「国際金融都市」及び「スポーツ、食文化・エンターテインメント」の5つを掲げ、地域性に応じた分野設定が行われている。

例えば、大阪・関西万博（2025年開催）でのテーマとなる「ライフサイエンス」や「カーボンニュートラル」、「最先端のモビリティ」等の次世代技術、SDGs 達成に向けた先導的な取組み等を当地域における MICE のコンテンツの1つにすることが取組みの方向性の中で挙げられており、地域独自のイベント・資源を活用した MICE 誘致の展開が志向されているといえる。

加えて、重点分野に掲げられる「環境・エネルギー」をはじめとして、SDGs やサステナビリティを意識した取組みも盛り込まれており、「重点分野（ライフサイエンス、

ものづくり、環境・エネルギー、国際金融都市、スポーツ・食文化・エンターテインメント) や万博のテーマ、SDGs をテーマとする国際会議や展示会等への新たなインセンティブの創設」や「MICE 関連事業者と連携した SDGs 運営にかかる取組みを情報発信 (全国初「SDGs for MICE 評価制度」等)」、「SDGs 対応の MICE 運営に係る先進事例調査の実施」等が具体的な施策展開の一例として記載されている。

これらのことから、MICE に活用可能な地域資源の抽出・選定、SDGs 関連の持続可能性に配慮した施策展開が今回の MICE 誘致戦略で意識されているといえる。

(出典) 大阪府ウェブサイト

https://www.pref.osaka.lg.jp/toshimiryoku/osaka_mice_strategy/index.html

<札幌市>

札幌市における直近の MICE 関連の動きについて整理を行った。

■アフターコロナ関連の動向

札幌市では、2024 年 1 月末時点の公表情報に基づく限り、新型コロナウイルス感染症による社会情勢の変化に伴う影響を踏まえる必要があるとして、2015 年に策定した「札幌 MICE 総合戦略」の更新を延期している。

また、2018 年 5 月に策定した「(仮称) 新 MICE 施設整備基本計画」に基づく新 MICE 施設整備事業に関しても、同様の理由から事業実施を延期し、2023 年 3 月までとしていた施設計画等の再検討期間を 2024 年 3 月まで 1 年間再延期することとしている。

以上より、札幌市では、新型コロナウイルス感染防止対策を含むウィズコロナの活動はこれまでも実施されているものの、アフターコロナに向けた本格的な動きは表立っては見られない状況である。

■その他新たな MICE 施策の動向

札幌市では、MICE 分野における都市のサステナビリティを測る国際的な評価指標である「Global Destination Sustainability Index (GDS-Index)」に長年参加し、評価機関によるチェックを定期的に受けている。

GDS-Index の指標は、総合スコアに加え、内訳として DM0、サプライヤー、社会及び環境の 4 要素から構成されており、総合スコアを向上させるには各分野の基準をクリアするための総合的な取組が必要となっている。

GDS-Index について、GDS-Movement (Global Destination Sustainability Movement) の HP によれば、2023 年の札幌市の総合スコアは 66.89%と、2022 年の 59.07%から約 8%上昇しており、MICE 関連のサステナビリティ向上に向けた取組の成果が出ていると考えられる。

一方で、2023 年の世界トップとなった都市はスウェーデンのイエーテボリであり、総合スコア 94.64%と高い水準となっている。

また、2023 年の世界 40 位となったミラノ (イタリア) の総合スコアは 71.50%であり、札幌市より高い水準にあることに加え、2023 年の世界トップ 40 となった都市の多くが札幌市と同様に総合スコアを 2022 年より上昇させており、サステナビリティ向上を図る取組及び指標状況は国際的な都市間競争にあると見られる。

(出典) GDS ウェブサイト <https://www.gds.earth/index/>

<神戸市>

神戸市における直近の MICE 関連の動きについて整理を行った。

■アフターコロナ関連の動向

神戸市では、(一財)神戸観光局・神戸コンベンションビューローが 2023 年 11 月に公表した「神戸で開催された MICE に関する調査レポート」により、コロナ禍前後の市内 MICE の開催状況を分析した結果が整理されている。

同レポートによれば、新型コロナウイルス感染症の感染拡大後、市内 MICE の参加者や開催件数は 2021 年度を底に落ち込んだものの、2022 年度にかけては回復傾向にあることが示されている。

加えて、1,000 人以上の大型コンベンションにおいて、オンライン参加を含むハイブリット形式としたイベントでの現地参加率・オンライン参加率が分析されており、2020 年度は現地参加：16%、オンライン参加：84%だった状況から、現地参加率の比率は年々上昇し、2023 年度の 4~7 月期においては現地参加：66%、オンライン参加：34%となったとされる。

神戸市では、2024 年 1 月末時点の公表情報に基づく限り、アフターコロナに特化した計画の策定・更新等は確認されないが、足元の MICE 動向に関する詳細データの取得が行われ、MICE 需要の回復に係る兆しが示されているといえる。

先述の調査レポートにおいても、直近状況を踏まえて『年間を通して地域の稼働を高める「現地開催」の MICE に注力』とされており、対面による MICE の開催価値の重要性を加味した施策展開が志向されていると考えられる。

(出典) 神戸コンベンションビューローウェブサイト

<https://kobe-convention.jp/ja/news/8180/>

■その他新たな MICE 施策の動向

(一財)神戸観光局では、教育旅行向けの新たな誘致ツールとして、『KOBE SDGs 探究プログラム』を開発したことを 2023 年 1 月に公表した。同プログラムにおいては、全国の中学校及び高等学校向けの「SDGs・探究学習・キャリア教育」をテーマとし、神戸を代表する企業や公共施設、大学、ボランティア団体等(計 32 団体)の協力のもと、各団体の SDGs の取り組みの学習や生徒自らがテーマ探求を図るための計 29 プログラムが提供されている。

当該プログラムは、教育面の要素が強いものの、全国から生徒を誘客することを念頭に置いた広義の MICE 施策ともいえ、地元企業を含む産官学連携も意図されている。また、学習の切り口の 1 つに SDGs が位置づけられており、MICE を通じたサステナビリティ意識の向上も図られているといえる。

(出典) 神戸市ウェブサイト

<https://www.city.kobe.lg.jp/a64051/kanko/kisyasiryu/202301/262411759558.html>

(2) 調査結果のまとめ

新型コロナウイルス感染症の世界的拡大に伴う社会経済環境の変化を受け、MICE のあり方を規定する各要素が変化し、これに伴い発生した新たな課題への対応が求められている。

さらに、MICE の開催や運営にあたっては、SDGs にみられる環境や人権等に対する社会的な責任を念頭に置く必要があり、持続可能性への取組が必要とされる。

この世界的な潮流に従い、国内の主要 MICE 開催都市において、サステナビリティに関する様々な取組を行っているが、これらの取組は主な内容に応じて、環境負荷低減、ダイバーシティ、イノベーション、その他に関する取組として分類することができると考えられる。

サステナビリティに関する取組例

■環境負荷低減

- 再生可能エネルギーや水素の積極利用
- 公共交通による国際会議場への移動の推進

■ダイバーシティ

- 多言語対応、多文化共生のための地域づくり
- ムスリムにやさしい観光地の整備

■イノベーション

- 旅行者や地域住民にとって利便性の高いモビリティサービスの提供
- ICT を活用したオンライン会議やバーチャルイベント等、MICE のデジタルシフトに対応した受入環境の充実

■その他

- 歴史・伝統に裏打ちされた多様なユニークベニューの活用による文化継承
- 観光地の訪問・周遊促進による地域活性化への貢献

2 国際観光都市として相応しい取組の方向性の調査・検討

MICE の開催や運営においては、サステナビリティに関する取組が求められることから、「MICE を核とした国際観光都市」の実現を目指し魅力的な機能整備を行うにあっても、サステナビリティに関する取組の実施が同様に求められると考えられる。

このため、国際観光都市として相応しい取組の方向性の調査・検討のため、各施設や事業者の先進的、特徴的な事例について調査を行った。

■先進的・特徴的な事例の調査

事例対象		サステナビリティに関する取組			
		環境負荷低減	ダイバーシティ	イノベーション	その他
国際会議場・国際展示場	パシフィコ横浜（神奈川県横浜市）	○	○	○	○
	東京国際フォーラム（東京都）	○	○		○
	東京ビッグサイト（東京都）	○	○		○
	幕張メッセ（千葉県千葉市）	○	○		
	インテックス大阪（大阪府大阪市）	○	○	○	○
	マリンメッセ福岡（福岡県福岡市）	○	○	○	○
宿泊施設	アマネム（三重県志摩市）	○	○		
	ラグーナベイコート（愛知県蒲郡市）	○	○		○
	TIAD（愛知県名古屋市）	○	○		
	エスパシオナゴヤキャッスルホテル（愛知県名古屋市）	○	○		
	コンラッド名古屋（愛知県名古屋市）	○	○		
	宿泊施設（ラグジュアリー）	○	○		○
エンターテインメント施設	エスコンフィールド HOKKAIDO（北海道北広島市）	○	○	○	○
	Kアリーナ（神奈川県横浜市）	○	○	○	
	愛知国際アリーナ（愛知県名古屋市）	○	○		
	レゴランド（愛知県名古屋市）	○	○		○
	ジブリパーク（愛知県長久手市）	○	○		○
事業者	PCO		○		○
	次世代都市型モビリティ開発事業者	○	○	○	○
	デジタルバンダー	○	○	○	○

(1) 国際会議場・展示場

1) パシフィコ横浜（神奈川県横浜市）

開業年月	<ul style="list-style-type: none"> ・1991年7月（会議センター・ホテル棟） ・1991年10月（展示ホール竣工（I期）） ・2001年7月（展示ホールII期）
運営主体	株式会社 横浜国際平和会議場
所在地	神奈川県横浜市西区みなとみらい一丁目1番1号
アクセス	<ul style="list-style-type: none"> ・みなとみらい駅から徒歩5分 ・桜木町駅から徒歩12分、タクシーで5分、バスで11分 ・横浜駅から連節バス「BAYSIDE BLUE」で11分、タクシーで10分 <p>※バリアフリールート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みなとみらい駅からエレベーター ・車イス用駐車スペース（みなとみらい公共駐車場）
施設概要	<p>○施設規模</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総敷地面積：約72,000 m² ・総延床面積：214,000 m² <p>○国立大ホール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本舞台：約128 m²：5,002（席） ・基本舞台＋置舞台：約200 m²：4,838（席） ・基本舞台＋置舞台2列：約242 m²：4,718（席） ・本舞台＋迫舞台＋置舞台：約350 m²：4,538（席） <p>（マリンロビー）1,400 m²</p> <p>○会議センター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メインホール：1,323 m²：1,004（席） ・大・中・小会議室（52室）：約9,032 m²** <p>※会議センター内会議室（1－5F）の面積の合計（控室除く）</p> <p>○展示ホール（全20,000 m²）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホールA：3,300 m² ・ホールB：6,700 m² ・ホールC：3,300 m² ・ホールD：6,700 m² <p>○アネックスホール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セミナールーム（6分割可）：1,350 m² ・展示ホール2F会議室：445 m²** ※E23（VIP控室）を含む <p>○ノース</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1F多目的ホール：6,337 m² ・2F小会議場：1,337 m² ・3・4F大中小会議室：8,436 m² <p>○ホテル*</p>

	<p>※運営はヨコハマ グランド インターコンチネンタル ホテル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 客室：594 室 ゲストルーム：コージー、アクセシブル（バリアフリールーム）、クラシック、プレミアム、プレミアム クラブアクセス、 스위트：ジュニアスイート、和室スイート、スイート、スイート クラブアクセス、ロイヤルスイート) ・ 宴会場：15 室 ボールルーム：250～430 名 パシフィック：80～200 名 ベイビュー：60～90 名 エーゲ：40～60 名 アトランティック：40～80 名 アドリア：10～30 名 シルク：40～100 名 パール：20～50 名 ・ ダイニングサロン ルグラン：6～15 名/ メイフェア：8～16 名/ カールトン：14～26 名 アルバスタン・アムステル・ウィラード：各 4～10 名 ・ パーティースペース スターボ：40～80 名 ベイブリッジ カフェテリア：40～150 名 ・ ファシリティ スパ フィットネスクラブ（トレーニングジム、プール、ジャグジー、サウナ フローリスト 写真室美容室/ 衣装室/ ショップ（6 店舗） 専用クルーズ船/ 美容鍼店 <p>https://recruit.pacifico.co.jp/about https://lp.pacifico.co.jp/hubfs/dl/open/digital_brochure_JP.pdf https://www icyokohama-grand.com/</p>
<p>サステナビリティに関する取組</p>	<p>○環境負荷低減</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2025 年までに電力由来の CO2 排出量ゼロの目標 ・ 2030 年までに CO2 排出量 70%削減（2013 年比）の目標 ・ 2050 年までに CO2 排出量実質ゼロの目標 ・ 循環型社会の実現 廃棄物の 100%リサイクル <p>○ダイバーシティ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全施設に車いす対応エレベーター、スロープ、トイレ、座席スペー

- ス、自動販売機、駐車スペースの完備
 - ・お子様用設備（ベビーチェア/ベビーシート付きトイレ、赤ちゃん休憩室、ベビー用品販売）
 - ・補助犬対応可
 - ・筆談での案内
 - ・多目的トイレ、オストメイト対応設備
 - ・ユニバーサルシート、車いす用席
 - ・車いすでも購入しやすい自動販売機の設置
 - ・主な施設の多言語表記: 4か国語
 - ・礼拝室（ムスリムの方向けに、礼拝マットとコンパスの貸出）
 - ・ダイバーシティ・マネージメント
- <https://www.pacifico.co.jp/aboutus/name>
- <https://www.pacifico.co.jp/service>

○イノベーション

- ・サステナブル WEB デザインの導入

○その他

- ・来場者数年間 500 万人（臨港パーク来場者含む）、横浜市経済波及効果年間 1,000 億円（全国 2,700 億円）による地域活性化
- ・MICE 人材育成
- ・感染症予防対策の国際認証（STAR Facility Accreditation（以下 GBAC STAR™認証））の取得

<https://sustainable.pacifico.co.jp/top-message>

<https://www.pacifico.co.jp/company/managementplan>

（出典）パシフィコ横浜ウェブサイト等



（写真）PhotoAC

2) 東京国際フォーラム（東京都）

開業年月	1997年1月
運営主体	株式会社東京国際フォーラム
所在地	東京都千代田区丸の内三丁目5番1号
アクセス	<p>○JR線</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有楽町駅より徒歩1分 ・東京駅より徒歩5分(京葉線東京駅とB1F地下コンコースにて連絡) <p>○地下鉄</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有楽町線：有楽町駅(B1F地下コンコースにて連絡) ・千代田線：二重橋前駅より徒歩5分/日比谷駅より徒歩7分 ・丸ノ内線：銀座駅より徒歩5分 ・銀座線：銀座駅より徒歩7分/京橋駅より徒歩7分 ・三田線：日比谷駅より徒歩5分 <p>○成田空港から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リムジンバス 東京駅まで80～90分 ・JR成田エクスプレス 東京駅まで53分 <p>○羽田空港から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モノレール浜松町駅まで23分 ・JR浜松町駅より有楽町駅まで4分
施設概要	<p>○ホールA：劇場形式／座席数：5,012席 (二層式：1階席3,025 2階席1,987)</p> <p>○ホールB7：平土間形式／床面積：1,400㎡ (2分割可：670㎡/670㎡)</p> <p>○ホールB5：平土間形式／床面積：600㎡ (2分割可：280㎡/300㎡)</p> <p>○ホールC：劇場形式／座席数：1,502席 (三層式：1階席739 2階席363 3階席400)</p> <p>○ホールD7：平土間形式／床面積：340㎡ (引き出し式収納席：100席/180席)</p> <p>○ホールD5：平土間形式／床面積：285㎡</p> <p>○ホールD1：平土間形式／床面積：137㎡</p> <p>○ホールE：床面積：5,000㎡ (2分割可：3,000㎡/2,000㎡)</p> <p>○会議室：</p> <p>Dブロック会議室(4・5階)：3室 (D401会議室：49㎡、D502会議室：41㎡、D503会議室：41㎡)</p> <p>Gブロック(ガラス棟会議室(4～7階)：31室 (4～6階各階10室、7階1室)</p> <p>○その他：ロビーギャラリー：800㎡/ ラウンジ：224㎡</p>

<p style="text-align: center;">サステナビリティに関する 取組</p>	<p>○環境負荷低減</p> <ul style="list-style-type: none"> ・太陽光発電システムを使用した電力の利用 ・太陽熱集熱システムを使用した温水の利用 ・排水再利用システムの利用 ・屋上緑化 ・生ゴミリサイクル ・照明・空調設備等の省エネルギー化 ・エネルギー管理システム (Energy Management System) ・地球温暖化対策計画書の作成 (PDF 有) <p>○ダイバーシティ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様で柔軟な働き方に向けた制度の導入 ・ダイバーシティ・多様性の確保 ・「倫理行動基準」14 全ての人々の人権を尊重し、人種、信条、宗教、国籍、年齢、性別、出身、心身の障害等に基づく差別をしない ・TOKYO 2020 アクセシビリティガイドラインへの対応 ・外国人観光案内窓口 ・バリアフリー設備の充実化 ・車いすでもご利用いただけるエレベーター、トイレ、座席スペース、視覚障害の方のための誘導ブロック、触地図、音声ガイドシステム、誘導鈴スピーカー等を設置 ・触地図/ インターフォン/ 難聴者補助設備装置 (FM 式・169MHz) / 音声誘導装置/ 視覚障がい者誘導ブロック ・授乳室、ベビーチェア設置トイレ、おむつ替え台設置トイレ、ベビー用品の販売 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大丸有 SDGs ACT5 への加盟 ・千代田区における各種社会活動への積極的な参加 ・一時滞在施設としての帰宅困難者受入環境整備 ・自衛消防隊の組織と定期的な訓練の実施 ・浸水 (ゲリラ豪雨) 対策の推進 ・コンプライアンス憲章等の制定と遵守 ・健康に配慮した就業環境の確保
--	--

(出典) 東京国際フォーラムウェブサイト等



(写真) PhotoAC

3) 東京ビッグサイト（東京都）

開業年月	1996年4月
運営主体	株式会社東京ビッグサイト
所在地	東京都江東区有明 3-11-1
アクセス	<p>○電車</p> <ul style="list-style-type: none"> ・りんかい線：国際展示場駅（下車 徒歩約7分） ・ゆりかもめ：東京ビッグサイト駅（下車 徒歩約3分） ・BRT：新橋-国際展示場（17分）（下車 徒歩7分） <p>○都営バス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京駅-東京ビッグサイト 約40分（直通） ・東京駅-豊洲駅 約20分、豊洲駅-東京ビッグサイト 約20分 ・門前仲町-豊洲駅 約15分、豊洲駅-東京ビッグサイト 約20分 <p>○JRバス関東</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京駅-国際展示場駅：約25分、 ・国際展示場駅-東京ビッグサイト：約4分 <p>○水上バス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日の出桟橋-東京ビッグサイト：約30分 <p>○リムジンバス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・羽田空港から：約25分 ・成田空港から：約80分
施設概要	<p>○会議室</p> <p>801 会議室：75 m²/ 802 会議室：100 m²/ 803 会議室：35 m² 804 会議室：55 m²/ 805 特別応接室：85 m²/国際会議場：1,030 m² /701 会議室：80 m²/ 702 会議室：80 m²/701+702 会議室：150 m² / 703 会議室：150 m²/601 会議室：80 m²/ 602 会議室：55 m²/ 603 会議室：55 m²/604 会議室：80 m²/ 605 会議室：190 m²/ 606 会議 室：190 m²/607 会議室：190 m²/ 608 会議室：190 m²/ 609 会議室： 135 m²/610 会議室：135 m²/ 605+606 会議室：380 m²/607+608 会 議室：380 m²/ 605+606+607+608 会議室：760 m²/101 会議室：180 m²/ 102 会議室：180 m²/ 103 会議室：35 m²/104 会議室：50 m²/103 +104 会議室：90 m²/レセプションホール A+B：最大1,700 m²/レ セプションホール A：700 m²/レセプションホール B：700 m²</p> <p>○展示ホール</p> <ul style="list-style-type: none"> - 東展示棟 <ul style="list-style-type: none"> 東1ホール：8,670 m²/ 東2ホール：8,350 m² 東3ホール：8,670 m²/ 東4ホール：8,670 m² 東5ホール：8,350 m²/ 東6ホール：8,670 m² 東7ホール：11,680 m²/ 東8ホール：3,080 m² - 西展示棟 <ul style="list-style-type: none"> 西1ホール：8,880 m²/ 西2ホール：8,880 m²

	<p>西3ホール：4,680 m²/ 西4ホール：6,840 m²</p> <p>- 南展示棟</p> <p>南1ホール：5,000 m²/ 南2ホール：5,000 m²</p> <p>南3ホール：5,000 m²/ 南4ホール：5,000 m²</p> <p>南会議室A：170 m²/ 南会議室B：220 m²/ 南会議室A+B：390 m²</p> <p>- その他の施設</p> <p>アトリウム：2,000 m²/ リンクスペース：1,120 m²</p> <p>屋上展示場：6,000 m²</p>
<p>サステナビリティに関する取組</p>	<p>○環境負荷低減</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域熱供給システムの利用 ・環境対策会議の実施（温暖化対策計画書 PDF 有） ・「ゼロエミッション東京」への協力 ・脱プラスチックの取組み ・ペーパーレス化の推進 ・LED化の推進 ・ZEVの普及の促進（東京都協力事業） ・太陽熱利用 ・緑化の維持・推進 ・コミュニティサイクル利用の促進 ・太陽光パネルの設置 ・振動発電の導入（2020～2022年 東京都協力事業） ・舗装型太陽光パネルの導入（2020～2022年 東京都協力事業） ・再資源化の促進 ・生ゴミの飼料化の促進 ・雨水の利用 ・ボトルディスペンサー式水飲栓の設置（2022年～東京都協力事業） ・廃棄予定の花でクリスマス装飾 <p>○ダイバーシティ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「パラスポーツ体験会」企画運営に参画（2022年10月） ・車いす対応エレベーター、エスカレーター/車いすレンタル/バリアフリートイレ/授乳室/ベビーシート/車いす専用者枠駐車場 ・ホテルフクラシア晴海：ベジタリアン・ハラール対応 ・京王プラザホテル東京：ベジタリアン対応 ・祈禱室/プレイヤールーム：ビジター&ビジネスセンターに祈禱室を整備 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「安全・安心・快適」な環境づくり 大規模災害等に対する危機管理体制の確立

	<p>災害時の一時滞在施設としての役割</p> <p>安全・安心な環境整備</p> <p>継続的な応急救護訓練</p> <p>ユニバーサルマナーの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域社会の発展への貢献 <ul style="list-style-type: none"> 東京臨海副都心まちづくり協議会への参加 「CLUB ARIAKE」の活動 東京国際プロジェクトマッピングアワード(2016年～) ・健全で強固な組織体制 <ul style="list-style-type: none"> ガバナンス体制の維持/コンプライアンスの遵守/リスクマネジメント体制の強化/情報システムのセキュリティ対策の推進/労働安全衛生・メンタルヘルス/ワークライフバランスの推進 /人材の育成 ・GBAC STARTM認証の取得 <p>https://www.bigsight.jp/visitor/company/csr.html</p>
--	---

(出典) 東京ビッグサイトウェブサイト



(写真) PhotoAC

4) 幕張メッセ（千葉県千葉市）

開業年月	平成元年(1989年)10月
運営主体	株式会社 幕張メッセ
所在地	千葉市美浜区中瀬 2-1
アクセス	<p>○電車</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JR 京葉線 『海浜幕張駅』から徒歩約5分（東京から快速利用で約30分） ※JR 京葉線 『幕張豊砂駅』からは徒歩約20分 ・JR 総武線・京成線『幕張本郷駅』から『幕張メッセ中央』行きバスで約17分 <p>○バス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海浜幕張駅 降車後 徒歩約5分 <p>○羽田空港</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電車利用：約60分、高速バス利用：約40分 <p>○成田空港から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電車利用：約60分、高速バス利用：約30～40分
施設概要	<p>○展示ホール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展示ホール1～8：6,750㎡×8ホール ・展示ホール9～11：(9) 9,000㎡ / (10・11)：各4,500㎡ <p>○国際会議場</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンベンションホール：1,390㎡ ・国際会議室：635㎡ ・中会議室101：160㎡/ 中会議室102：139㎡ ・中会議室103：156㎡/ 中会議室104：156㎡ ・中会議室105：156㎡/ 中会議室201：330㎡ ・中会議室202：83㎡/ 小会議室203：72㎡ ・小会議室204：53㎡/ 小会議室205：53㎡ 213、214、215、216：各16㎡ ・中会議室301：280㎡/ 中会議室302：194㎡ ・中会議室303：194㎡/ 中会議室304：190㎡ <p>○幕張イベントホール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アリーナ：3,098㎡
サステナビリティに関する取組	<p>○環境負荷低減</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地球温暖化への取組 <p>○ダイバーシティ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バリアフリートイレ・オストメイトの設置 ・車いすの貸出 ・身障者用乗降スペース/車いす使用者用駐車場 ・授乳室、ベビーシート <p>○その他</p>

- | | |
|--|---|
| | <ul style="list-style-type: none">・地域社会との共生の取組・社会・文化活動への取組 |
|--|---|

(出典) 幕張メッセウェブサイト



(写真) PhotoAC

5) インテックス大阪（大阪府大阪市）

開業年月	1985年5月
運営主体	一般財団法人 大阪国際経済振興センター
所在地	大阪市住之江区南港北1-5-102
アクセス	<p>○電車</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪メトロ 中央線：コスモスクエア駅から徒歩約9分 ・大阪メトロ 南港ポートタウン線：トレードセンター前駅から徒歩約8分 ・大阪メトロ 南港ポートタウン線：中ふ頭駅から徒歩約5分 ・新大阪駅から大阪メトロ使用で約45分、JR+大阪メトロ使用で約40分 ・梅田駅から大阪メトロ使用で約40分 ・難波駅から約40分 ・神戸三宮から約50分 ・大阪国際空港伊丹空港から新大阪まで約25分 大阪（梅田）まで約30分、難波まで約30分 ・関西国際空港から中ふ頭まで約1時間30～40分 ・グランドプリンスホテル大阪から関西国際空港：リムジンバス使用で約50分 ・神戸空港から中ふ頭：約1時間30分 ・大阪南港フェリーターミナルから中ふ頭：電車使用で約15分 <p>https://www.intex-osaka.com/jp/access/</p>
施設概要	<p>○展示館・屋外展示場</p> <p>1号館 5,087.0 m²/ 2号館 6,729.0 m²/ 3号館 5,119.0 m² 4号館 6,729.0 m²/ 5号館 Aゾーン 4,728.0 m² Bゾーン 1,625.0 m² 6号館 Aゾーン 9,679.5 m²/ Bゾーン 9,679.5 m² Cゾーン 10,535.0 m²/ Dゾーン 10,167.0 m² 屋外展示場 2,900.0 m²/ 西ゲートロータリー 2,900.0 m²</p> <p>○会議室・貸室</p> <p>- センタービル 2F・5号館・ロフト 国際会議ホール：414 m²/ 特別室（VIP）：96 m² 会議室 A・B：96 m²/ 会議室 C：64 m² 会議室 D・E：各 55 m²/ ルーム 1・5・6：各 22 m² ルーム 2・3・4：各 46 m² ロフト 1：176 m²/ ロフト 2：173 m²</p> <p>- 6号館 2F 会議室・3F スペース・5F 多目的ホール 会議室 F：201 m²/ ルーム 6-1：35 m² ルーム 6-2、6-3、6-6：各 22 m²/ ルーム 6-4：14 m² ルーム 6-5：35 m²/ ルーム 6-7：16 m²</p>

	<p>ルーム6-8 : 14 m²/ ホールG (多目的ホール) : 534 m² ホールH (多目的ホール) : 595 m²</p>
<p>サステナビリティに関する取組</p>	<p>○環境負荷低減</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設省エネ、効率的なエネルギーの使用 ・ペーパーレス化 <p>○ダイバーシティ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HP4 言語対応 (日・英・中 (繁体/簡体)・韓) ・Kitchen & Cafe SUGOH : ヴィーガンフード対応 ・オストメイト対応の多目的トイレ ・ベビールーム (おむつ交換ベッド、授乳スペース) ・車いす貸出 ・国籍を問わない人材の採用 <p>○イノベーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育分野への ICT 活用支援 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な働き方の推進 ・休暇制度の充実 ・安全大会&安全推進 ・SDGs に取り組む企業のマッチング ・BPC (ビジネスパートナー都市) 交流活動 ・安全・安心に利用できる施設・サービスの提供 ・社外関連機関との連携、地域経済への貢献 ・地域清掃活動への参加

(出典) インテックス大阪ウェブサイト



(写真) PhotoAC

6) マリンメッセ福岡（福岡県福岡市）

<p>開業年月</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和 56 年 10 月（福岡国際センター） ・平成 7 年 8 月（マリンメッセ福岡 A 館） ・平成 15 年 3 月（福岡国際会議場） ・令和 3 年 4 月（マリンメッセ福岡 B 館）
<p>所在地</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・福岡市博多区石城町 2-1（福岡国際センター）（福岡国際会議場） ・福岡県福岡市博多区沖浜町 7-1（マリンメッセ福岡 A 館） ・福岡県福岡市博多区沖浜町 2-1（マリンメッセ福岡 B 館） ・福岡県福岡市博多区築港本町 2-2（福岡国際センター）
<p>アクセス</p>	<p>【福岡国際会議場・福岡国際センター】</p> <p>○地下鉄・電車</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地下鉄呉服町駅より徒歩 12 分 ・地下鉄中洲川端駅より徒歩 15 分 ・天神駅より徒歩 22 分/西鉄福岡（天神）駅より徒歩 22 分 ・JR 博多駅より徒歩 27 分 <p>○バス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際センターサンパレス前バス停 （博多駅西日本シティ銀行前バス停から約 12 分、天神ソラリアステージ前バス停から約 9 分、呉服町バス停から約 6 分） <p>【マリンメッセ福岡 A・B 館】</p> <p>○地下鉄・電車</p> <ul style="list-style-type: none"> ・呉服町駅より徒歩 15 分 ・中洲川端駅より徒歩 18 分 ・天神駅より徒歩 25 分 <p>○バス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マリンメッセ前バス停 （博多駅西日本シティ銀行前バス停から約 15 分、天神ソラリアステージ前バス停から約 12 分）
<p>施設概要</p>	<p>○福岡国際会議場</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際会議室 501：420 m²/中会議室 502、503（1 室利用）：各 135 m² ・小会議室 504、505（1 室利用）：各 48 m²/ 小会議室 506：45 m² ・小会議室 401～406（1 室利用）：各 75 m²/ 小会議室 407：53 m² ・中会議室 409～414（1 室利用）：各 135 m² ・メインホール：1,300 m²/ 多目的ホール(全面利用)：1,320 m² （メインホールと多目的ホールの一体利用：2,700 m²） <p>○マリンメッセ福岡 A 館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多目的展示室（展示、アリーナ、ホール、コンベンション機能）：8,000 m² ・2 F 展示スペース：1,100 m²/ 海のモール：1,400 m² ・サブアリーナ(3F)：851 m²

	<ul style="list-style-type: none"> ・大会議室：410 m²/ 会議室 1：86 m²/ 会議室 2：140 m² ・会議室 3：106 m²/ 会議室 4：44 m² ・最大収容人数：約 15,000 人 ○マリンメッセ福岡 B 館 <ul style="list-style-type: none"> ・多目的展示室（展示、アリーナ、ホール、コンベンション機能）：5,000 m² ・会議室 1：354 m²/ 会議室 2：373 m² ・最大収容人数：約 6,000 人 ○福岡国際センター <ul style="list-style-type: none"> （展示、アミューズメント&カルチャー、スポーツ、コンベンション機能）展示面積：5,052m² （最大集客人数）1階：仮設席 約 6,000 人/ 2階：可動席約 2,500 人 3階：固定席 約 1,500 人
<p style="text-align: center;">サステナビリティに関する取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○環境負荷低減 <ul style="list-style-type: none"> ・電力デマンドの抑制や照明の LED 化等による省エネルギーの推進 ○ダイバーシティ <ul style="list-style-type: none"> ・ウェブサイトにおける言語対応（日・英・中・韓） ・さらなるユニバーサルデザインの推進 ・身障者小駐車スペース/ 身障者用トイレ/ 授乳室/ 車いすの貸出 ・職員研修の一環として、日本ケアフィット共育機構による「サービス介助基礎研修」の受講 ・点字ブロックの修繕や館内サインの見直し ・職員及び施設 関係者全体のユニバーサルマナーの知識と意識の向上を推進 ○イノベーション <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル技術を活用した利用申請書の電子化等、各種手続きのデジタル化に積極的に取組み、ペーパーレスを推進 ○その他 <ul style="list-style-type: none"> ・働き方改革の推進により、誰もが働きやすい働きがいのある職場づくり

(出典) マリンメッセ福岡ウェブサイト



(写真) PhotoAC

(2) ホテル

1) アマネム（三重県志摩市）

開業年月	2016年3月
運営主体	アマン/三井不動産株式会社 AMANEMU - 志摩リゾートマネジメント株式会社
所在地	三重県志摩市浜島町迫子 2165
客室数	スイート（モリ・ソラ・ナギ）全 24 室 ヴィラ（ツキ・モリ・ソラ・ナギ）
アクセス	中部国際空港 セントレアからヘリコプターで 25 分 電車で 3 時間 名古屋駅から電車で約 2 時間 30 分 大阪難波駅から電車で約 2 時間 30 分
施設概要	レストラン/ スパ/ 屋外プール/ ジム/ 温泉/ マニキュア・ペデ ィキュア専用サロン/ 屋外ヨガデッキ/ ヘリポート https://www.aman.com/ja-jp/resorts/amanemu
サステナビリティに関する取組	<p>○環境負荷低減</p> <ul style="list-style-type: none"> ・敷地内に郷土種を植栽することにより、地域の自然環境と調和した森の再生を図る <p>○ダイバーシティ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウェブサイトは 6 言語対応（日・英・中・仏・伊・西） ・三重県ユニバーサルデザインまちづくり推進条例基準適合施設 ・車椅子貸出/ 車椅子用トイレ/ 玄関館内段差対応

（出典）アマネムウェブサイト



（写真）PIXTA

2) ラグーナベイコート（愛知県蒲郡市）

開業年月	2019年3月
運営主体	リゾートトラスト株式会社
所在地	愛知県蒲郡市海陽町2-9-1
アクセス	(電車) JR 東海道本線「蒲郡」駅よりタクシーで約15分 「三河大塚」駅よりタクシーで約3分
客室数	客室：全193室（ロイヤルスイート76室、ラグジュアリースイート33室、ベイスuite84室）
施設概要	レストラン/ ラウンジ/ バー/ グランドボールルーム/ スパ/ トリートメントサロン/ ブティック/ アウトドアプール/ テニスコート/ ドッグラン/ クルーズ/ マリーナ
サステナビリティに関する取組	<p>○環境負荷低減</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サステナビリティ方針として環境方針を制定 <p>○ダイバーシティ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食物アレルギー対応基本方針 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ISO14001（名古屋本社） ・サステナビリティ方針として、以下を制定 社会貢献方針/人材育成方針/社会環境整備方針/人権方針 購買方針/品質管理方針/コーポレートガバナンス方針/ディスクロージャーポリシー/コンプライアンス方針/反社会的勢力に対する基本方針/リスクマネジメント方針/リスク管理方針 情報セキュリティ方針

(出典) ラグーナベイコート



(写真) MURC 撮影

3) TIAD (愛知県名古屋市)

開業年月	2023年7月
運営主体	株式会社日本セレモニー
所在地	愛知県名古屋市中区栄5-15-19
客室数	ユーフォリアデラックス：46室 ユーフォリア プレミア：91室 スイート(プレジデンシャルスイート、スイート、ジュニアスイート)：13室
アクセス	○地下鉄 ・名城線矢場町駅1番出口より徒歩1分 ・東山線栄駅14番出口より徒歩10分 ※名古屋駅から ・地下鉄東山線栄駅経由：地下鉄名城線矢場町駅(所要15分) タクシー12分 ※中部国際空港から ・名鉄空港線金山駅経由：地下鉄名城線矢場町駅(所要50分) タクシー45分 ※県営名古屋空港から ・あおい交通直行バス名古屋駅前行き：名古屋栄経由地下鉄名城線矢場町駅(所要40分) ・タクシー30分
施設概要	・インドアプール/ フィットネスジム/ ラウンジ/ レストラン/ ラウンジ/ バー/ ショップ ○Meeting&Function rooms クイーンズルーム/ パークビューノース/ パークビューサウス ○Wedding チャペル/ テラス/ ドレスショップ
サステナビリティに関する取組	○環境負荷低減 ・環境に配慮した木製カードキーの使用 ・客室備え付けのミネラルウォーターは再生利用可能なガラスボトルを使用 ○ダイバーシティ ・訪日外国人受入対応 【ホテルのバリアフリー機能】 エレベーター完備/バリアフリーのホテル内駐車場/バン対応のバリアフリーのホテル内駐車場/介助犬同伴可/車椅子対応車両バレーパーキング 【客室のバリアフリー機能】 バスタブの手すり/バスタブシート/バスルームの滑り止め手

すり／
バリアフリーの洗面化粧台／バリアフリールーム／低位置の電源コンセント／客室の障がい者用椅子付きシャワー／車椅子で入れるシャワー室
／車椅子の高さに合わせたトイレ便座／高さ調節可能な手持ちのシャワー
○その他
・愛知県産の食材を中心に SDGsを考慮した料理の提供



(出典) TIAD ウェブサイト、
愛知県ウェブサイト

<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/kokusai-kanko/koukyuhoteruhojoninteil.html>

4) エスパシオナゴヤキャッスルホテル（仮）（愛知県名古屋市）

開業年月	2025 年春開業予定
運営主体	株式会社名古屋キャッスル エスパシオエンタープライズ株式会社
所在地	名古屋市西区樋の口町 3-19
客室数	108 室（うちスイートルーム 30 室）
施設概要	バー、ラウンジ、屋内プール、レストラン、フィットネスジム
アクセス	名古屋市営地下鉄鶴舞線「浅間町駅」徒歩 10 分 名古屋市営地下鉄名城線「名古屋城駅」徒歩 15 分
サステナビリティに関する取組	<p>○環境負荷低減</p> <p>建築物環境配慮制度 (CASBEE 名古屋) の取得 井水利用、コジェネの採用、LED 照明の採用 敷地内で計画的に廃棄物処理を行い、ごみの減量化を計画</p> <p>○ダイバーシティ</p> <p>・訪日外国人受入対応</p>



（出典）愛知県ウェブサイト

<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/kokusai-kanko/koukyuhoteruhojonintei2.html>

名古屋市ウェブサイト

https://www.city.nagoya.jp/jutakutoshi/cmsfiles/contents/0000141/141757/CASBEEhyouka3_126.pdf

5) コンラッド名古屋（愛知県名古屋市）

開業年月	2026年夏開業予定
運営主体	ヒルトン、三菱地所株式会社、日本郵政不動産株式会社、明治安田生命保険相互会社、株式会社中日新聞社
所在地	名古屋市中区錦三丁目 2501 番 1
客室数	170 室
施設概要	オールデイダイニング、シグネチャーレストラン、ロビーラウンジ&バー、ルーフトップバー、エグゼクティブラウンジ、ジム、スパ、屋内プール、ボールルーム（宴会場）、ボードルーム、会議室、商業施設、映画館
アクセス	地下鉄東山線・名城線「栄」駅直結
サステナビリティに関する取組	<p>○環境負荷低減</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境に配慮した建物計画と防災性の向上 ・自然エネルギー利用等の導入により省エネルギーを目指すとともに、「名古屋市建築物環境配慮制度（CASBEE 名古屋）」における S ランクの建築物を目指す。 ・計画敷地内で緑化面積 20%以上を確保し、久屋大通公園への眺望や周辺との調和を意識した屋上広場の緑化や生育環境に配慮した緑化等により、ゆとりある都市環境の創出、ヒートアイランド現象の緩和に寄与 ・本計画建物内に地域冷暖房を導入することでエネルギーロスの最小化を図る ・また、建物のエネルギー需要を予測し、供給するデマンド運転の採用及び熱源・電源と空調・照明等を最適制御するエネルギーマネジメントシステムである BEMS と連携することで、省エネルギー化を実現していく <p>○ダイバーシティ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際的 MICE、訪日外国人の受入対応



(出典) 愛知県ウェブサイト

<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/kokusai-kanko/koukyuhoteruhojonintei2.html>

三菱地所プレスリリース

https://www.mec.co.jp/news/archives/mec220613_n325.pdf

6) 宿泊施設（ラグジュアリー）

<p>施設概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・温泉/ フィットネス/ レストラン/ ラウンジバー/ 大宴会場/ 会議場
<p>サステナビリティに関する取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○環境負荷低減 <ul style="list-style-type: none"> ・レストランでの紙製のストローの導入、客室ルームカードキーの木製化 ・環境に配慮した100%天然素材のアメニティを導入 ・木製ヘアークームの使用 ・連泊ゲストのリネン・タオルの再利用 ・食物廃棄物・一般ゴミでリサイクル ・電力等の再生エネルギーの活用 ・照明器具についてLED採用 ・中央監視室による節水、節電、冷暖房温度の管理 ・環境に配慮したフィットネスマシーンの導入 ○ダイバーシティ <ul style="list-style-type: none"> ・バリアフリールーム/ 車いすの貸出 ・言語対応（日・英） ・多国籍従業員の採用 ○その他 <ul style="list-style-type: none"> ■地域振興に関する取組 <ul style="list-style-type: none"> ・電動トゥクトゥクを導入、周遊プランの推進 ・地元のカフェと連携した宿泊プラン造成 ・宿泊客向けの体験プログラムの提供 ・犬山市観光協会と連携した市政観光促進PR ■地元産材の活用 <ul style="list-style-type: none"> ・地元農家との食材連携・積極的な使用

(3) エンターテインメント施設

1) エスコンフィールド HOKKAIDO (北海道北広島市)

開業年月	2023年3月
運営主体	株式会社 ファイターズ スポーツ&エンターテインメント
所在地	北海道北広島市Fビレッジ1番地
収容人数	約3万5000人(座席数:約3万人)
アクセス	<p>○電車</p> <p>-JR札幌駅から北広島駅 JR快速「エアポート」 約17分/普通列車 約25分</p> <p>-JR新札幌駅から北広島駅 JR快速「エアポート」 約7分/普通列車 約9分</p> <p>-JR新千歳空港から北広島駅 JR快速「エアポート」 約20分/普通列車 約27分</p> <p>-JR南千歳駅から北広島駅 JR快速「エアポート」 約17分/普通列車 約25分</p> <p>https://www.hkdballpark.com/access/train/</p> <p>○シャトルバス</p> <p>北広島駅からFビレッジ 約5分</p> <p>○バス</p> <p>JR新札幌駅からFビレッジ 約25分</p> <p>JR野幌駅からFビレッジ 約25分</p> <p>新千歳空港からFビレッジ 約55分</p> <p>https://www.hkdballpark.com/access/bus/</p>
施設概要	<p>敷地面積:約5ha</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野球場 ・複合型施設「TOWER11」(ホテル、球場内温泉・サウナ、博物館、フードホール等)
サステナビリティに関する取組	<p>○環境負荷低減</p> <ul style="list-style-type: none"> ・DBJ Green Building 認証5つ星取得 ・効率的なエネルギーの活用 <p>○ダイバーシティ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HP5言語対応(日・英・韓・中(繁体/簡体)・タイ) ・車いす専用駐車場/ベビーカー、車いす、ポータブルチェアの貸出し/授乳室/おむつ交換台/バリアフリースイートイレ/クロックサービス/バリアフリー設計(スロープ・サイトライン)/WHILL(近距離モビリティ)の導入/車いす席の配置 <p>○イノベーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・映像・照明・音響を一元的に制御する「統合マネジメントシステム(S-CMS)」の導入

○その他

- ・ 住み続けられる街づくり
- ・ パートナーシップで目標を達成
- ・ 多様性を尊重した雇用の創出
- ・ 柔軟な働き方の実践
- ・ F ビレッジ内全エリアでの分煙
- ・ 地域の危機対応としての社会的価値

(出典) エスコンフィールド HOKKAIDO ウェブサイト



(写真) photoAC

2)K アリーナ（神奈川県横浜市）

開業年月	2023年9月
運営主体	株式会社Kアリーナマネジメント
所在地	横浜市西区みなとみらい6-2-14
収容人数	20,033席
アクセス	<p>電車：東京から約25分、新宿から約29分、渋谷から約24分、羽田空港から約22分、新横浜から約11分</p> <p>バス：羽田空港より京浜急行バス 羽田空港第1ターミナルより横浜駅（YCAT）約30分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JR他各線「横浜駅」東口から徒歩9分 ※現在計画中の歩行者デッキが完成した場合。完成前は徒歩11分。 ・みなとみらい線「新高島駅」4臨港パーク口から徒歩5分 ・みなとみらい線「みなとみらい駅」2いちょう通り口から徒歩12分 <p>https://k-arena.com/access/</p>
施設概要	<p>延床面積：53,853m²</p> <p>バー、ラウンジ、VIPルーム</p>
サステナビリティに関する取組	<p>○環境負荷低減</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常設の設備の利用がもたらす舞台設備持ち込み削減による設営、撤収の削減 <p>○ダイバーシティ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HP2言語対応（日・英） ・授乳室/ 車椅子優先トイレ/ 障害者用駐車スペース <p>○イノベーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・VR内覧システム『ROOV walk』の導入

（出典）Kアリーナウェブサイト等



（写真）photoAC

3) 愛知国際アリーナ（愛知県名古屋市）

開業年月	2025 年夏開業予定
運営主体	株式会社愛知国際アリーナ https://aichi-arena.co.jp/
所在地	名古屋市北区名城1丁目2
アクセス	地下鉄名城線「名城公園」駅出てすぐ 地下鉄名城線「名古屋城」駅徒歩11分 新幹線・JR・地下鉄・私鉄各線「名古屋」駅電車13分
施設概要	<p>【施設規模】 敷地面積 約4.6ha、延床面積 63,000 m²、建築面積 26,500 m²、5階建て（客席は4階まで）</p> <p>【アリーナ概要】 最大収容数（立ち見含む）：17,000人 アリーナ面積：4,600 m²、サブアリーナ面積（サブアリーナ・多目的ホール合算）：2,600 m²</p>
プログラム （想定）	大相撲名古屋場所（2025年7月） その他、各種スポーツ競技（国際大会、フィギュアスケート、バレーボール等）、音楽ライブ、展示会等で利用予定
サステナビリティに関する取組	<p>○環境負荷低減</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CASBEE 名古屋 S ランク（環境配慮、省エネルギー化、防災性能の向上） <p>○ダイバーシティ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車椅子利用者用駐車スペースを計画し、観戦エリアまで車椅子のまま直接アクセス ・車椅子利用者や子ども等、利用者の状態に応じた使いやすいトイレ <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する



（出典）愛知県ウェブサイト

<https://www.pref.aichi.jp/uploaded/attachment/481403.pdf>

4) レゴランド（愛知県名古屋市）

開業年月	2017年4月開業 2018年4月ホテル、水族館開業 2019年7月新エリア開業
運営主体	LEGOLAND Japan 合同会社
所在地	名古屋市港区金城ふ頭 2-2-1
収容人数	非公表
アクセス	あおなみ線金城ふ頭駅徒歩10分 伊勢湾岸道名港中央インターより市営駐車場利用
施設概要	テーマパーク（第1期 9.3ha） 水族館（シーライフ名古屋）、ホテル（LEGOLAND Japan Resort）
プログラム	名古屋市との連携・協力に関する包括協定 https://www.city.nagoya.jp/somu/cmsfiles/contents/0000151/151831/regolandjapan.pdf 「子どもの未来を育む豊かな教育活動推進に関する協力」 「海の環境保全活動に関する各種協力」 「名古屋市の魅力発信への協力」
サステナビリティに関する取組	<ul style="list-style-type: none"> ○環境負荷低減 <ul style="list-style-type: none"> ・飲食施設やホテルでの使用プラスチックを大幅削減 ○ダイバーシティ <ul style="list-style-type: none"> ・車椅子貸出 ・言語対応（日本語・英語・中国語） ○その他 <ul style="list-style-type: none"> ・なごやSDGs グリーンパートナーズ ・ワークショップや水族館で、海洋ゴミについて学べる場を提供 ・「なごやSDGs グリーンパートナーズ」の認定エコ事業所として活動を推進

（出典）レゴランドウェブサイト、名古屋市ウェブサイト



（写真）MURC 撮影

5) ジブリパーク（愛知県長久手市）

開業年月	2022年11月
運営主体	愛知県、スタジオジブリ、中日新聞社
所在地	愛知県長久手市茨ヶ廻間乙1533-1
収容人数	実績は非公表（開業前の推計値では、5エリア開業時で約180万人）
アクセス	<p>○電車</p> <ul style="list-style-type: none"> ・愛知高速交通 東部丘陵線（リニモ）『愛・地球博記念公園』駅下車 <p>○バス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名古屋駅・名鉄バスセンター4階24番のりば 『愛・地球博記念公園（ジブリパーク）』行き ・中部国際空港第一ターミナル 『藤が丘』経由『愛・地球博記念公園（ジブリパーク）』行き
施設概要	<p>第1期3エリア（ジブリの大倉庫、青春の丘、どんどこ森） （2022/11/1開業）</p> <p>第2期2エリア（もののけの里 2023/11/1開業、魔法の谷 2024/3/16開業）</p>
プログラム	<p>ジブリパークのある愛知満喫コースの設定により県内各所への周遊促進</p> <p>https://www.aichi-now.jp/kaze/course/</p>
サステナビリティに関する取組	<p>○環境負荷低減</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自然の叡智」をテーマに2005年に開催された愛知万博の理念と成果を次世代へ継承し、その会場となった愛・地球博記念公園を将来にわたって愛され、後世に引き継がれる公園とするため、ジブリパークの整備を引き続き進める <p>○ダイバーシティ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全エリア車椅子で入場可能 ・盲導犬、聴導犬、介助犬を連れての入場可能 ・バリアフリートイレ <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光PRやプロモーションを実施することで、観光関連産業の振興を図る

（出典）愛知県ウェブサイト

<https://www.pref.aichi.jp/press-release/ghibliparkticket0720.html>



(写真) PIXTA

(4) 事業者

1) PCO

取組	<ul style="list-style-type: none">・誰一人取り残さない MICE
概要	<ul style="list-style-type: none">・MICE の運営においては、障害のある参加者、国・地域等文化の異なる参加者、多言語等、多様な対象の方への対応が必要となり、一つの組織だけで完全に対応するのは難しい・「誰一人取り残さない」という観点で MICE の企画・運営に取り組む・また、このようなサービスを必要とされている方々と共創することで、「“誰一人取り残さない” MICE プロジェクト」の拡大を目指す
取組の展開	<ul style="list-style-type: none">■人材紹介<ul style="list-style-type: none">・世界的通訳者／国内トップクラスの通訳者／手話・文字通訳者／ユニバーサルマナー検定取得者■ネットワーク<ul style="list-style-type: none">・海外とのネットワーク 31 か国／障害のある当事者とのネットワーク■技術・ノウハウ<ul style="list-style-type: none">・ISO20121（イベントサステナビリティ認証）／ユニバーサルデザインの専門的知見／障がい者手帳アプリ「ミライロ ID」■情報発信・PR<ul style="list-style-type: none">・HP、SNS、メディアネットワーク

(出典) 同社ウェブサイト

2) 次世代都市型モビリティ開発事業者

取組	自走式ロープウェイ
概要	今までデッドスペースとなっていた道路上の空間に価値を見出し、利便性、安全性、経済性に優れ「渋滞のない、どこでも駅徒歩5分圏内となる世界」を創る。
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ■低コスト（軽量搬器と軽量支柱の組み合わせ） <ul style="list-style-type: none"> ・既存のモノレールに比べ、約 1/5 のコスト(15 億円/km) ・期間(1 年)で建設可能 ■自由設計（カーブが可能） <ul style="list-style-type: none"> ・既存のロープウェイと異なり、ロープとゴンドラが独立しているため、カーブや分岐を自由自在に設けることができ、柔軟な路線設計が可能 ■自動運転（高頻度な交通インフラを実現する技術） <ul style="list-style-type: none"> ・自動運転のため、運転士不足に対応できるとともに、時間帯や路線等、旅客需要に応じて車両数を増減させることが可能 ■快適・安心走行（2本のロープとレール上を滑らかに安心走行） <ul style="list-style-type: none"> ・2024 年中には駆動部の安全性が認められ、ロープ2本タイプを採用しており、通常のロープウェイの1.5倍の風速(30m/s)まで運行可能 ■溶け込むデザイン <ul style="list-style-type: none"> ・日本の街並みに溶け込む、自然なデザインを目指している ・先進的でありながらも、主張しすぎない形状とカラーデザインにより、様々な街の風景にも違和感なく自然に溶け込む ・また、日本の四季の移ろいにも馴染むようデザインされている。

(出典) 同社ウェブサイト

3) デジタルベンダー

取組	MICE 分野における DX 導入
概要	<p>■案内用ディスプレイ（インタラクティブサイネージ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報量が多いコンテンツ（観光施設・美術品・大型施設・企業概要）や情報を効果的に発信できないという課題に対し、一度にたくさんのコンテンツを表示し、ユーザーに対して情報を発信する <p>■アバターによる案内</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人型、デフォルメ、動物キャラのアバターで、接客スキルを持った方が、オンラインを通じて複数の施設を担当できる ・リモート活用による多様な働き方実現にも活用ができる <p>■多言語翻訳ツール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国人対応目的で、自治体等の窓口で多く利用されている ・ディスプレイは「窓口コミュニケーションの感染防止対策」、「音が聞こえにくい方には、受付の会話を字幕によって伝達」、「発話が難しい方には、キーボードによる入力をサポート」を実現させた窓口のユニバーサルコミュニケーションサービス ・スマートフォン翻訳アプリは、よく使う固有名詞をカスタム登録することが可能。「行政・自治体窓口用語」「医療機関における看護師会話用語」「教育機関用語」があらかじめ登録されている <p>■体験型 XR アプリ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・VR で史跡を復元し、観光客が AR コンテンツとして楽しめる現地体験型 XR コンテンツ ・AR で当時のリアルな姿を体験することで、観光地への来訪動機付けにつながる <p>■混雑状況センシング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レストラン等の飲食店や施設の空席・混雑状況をリアルタイムに伝える混雑状況可視化サービスで、利用シーンや目的に応じた多様なセンサーで混雑状況をセンシングし、リアルタイムで表示できる

(出典) 同社ウェブサイト

3 まとめ

前述の事例調査を踏まえ、国際観光都市に相応しい魅力的な機能整備を行うにあたって必要となる取組の方向性について以下のとおり検討を行った。

■環境負荷低減

- ・ MICE 施設で必要となるエネルギーについて、再生エネルギー、代替エネルギーを活用するとともに、省エネルギーにも配慮する。
- ・ 環境負荷低減に向け、屋上緑化や壁面緑化といったグリーンインフラを有効活用するとともに、MICE 施設への来訪については環境負荷低減を可能とする移動手段の導入と、公共交通機関の利用促進等を進める。
- ・ 食品ロスの対策として、食品残渣の再利用、再生エネルギー活用等にも取り組む。

■ダイバーシティ

- ・ MICE ならびに MICE 施設における多言語対応に向け、多国籍の従業員の採用等、外国人材を積極的に登用していく。
- ・ 食の環境整備や多目的設備の配備等、様々な宗教や主義を有する来訪者のニーズに応じた受入環境整備を推進する。
- ・ 誰もが安心して参加ができる MICE に向け、参加者だけでなく、受入施設側の障がい者対応を進め、障がい者のスタッフとしての登用や障がい者を雇用する店舗の導入を推進する。

■イノベーション

- ・ MICE 分野におけるデジタルツールの導入（MICE プログラムの一元管理、顔認証による入場管理、AI を活用した案内等）人手不足への対応と生産性向上を図るとともに、宿泊施設等の滞在者向けにデジタル技術を活用した観光案内や、エンターテインメントにおける DX 導入により魅力向上を図る。
- ・ 仮想空間（メタバース）を活用した展示会やイベントの導入や、遠隔地におけるオンライン商談の実施等、デジタル技術をより幅広く新しい活用方法をも細工していく。
- ・ 施設内の移動の円滑化のため、施設内回遊バス（自動運転バス）や、施設間を空中で結ぶ移動用ゴンドラ等、新たな技術導入により、MICE 参加者の快適な移動をサポートする。

■その他

- ・ MICE 参加者や MICE 関係者の、MICE 開催会場の近隣の観光地・観光スポットへの立ち寄りを促進し、消費を促す事により地域経済波及効果を高めていく。
- ・ 地域での体験プログラムの一環として、特に欧米豪の旅行者から支持を得ているサステナブルツーリズムをプログラム化し、展開することで、国際交流の機会創出に繋げる。

(地域活性化への寄与)

- ・ MICE を開催するにあたり必要となる資材の調達、委託等は地元事業者を活用し、域内経済の活性化に貢献していく。
- ・ 国際会議等におけるエクスカージョンについては、近隣の観光施設等への訪問を組み込み、地域を巻き込んだ MICE を展開する。
- ・ MICE 施設から最寄駅までの間のアクセスとして、直行便のシャトルバスではなく、徒歩での移動も促し、周辺の店舗への立ち寄りを促し、賑わいと経済活性化に繋げていく。

(地産地消)

- ・ MICE 施設で提供する飲食については、地元産食材を活用し、地元産材と地域の生産者の維持に貢献する。
- ・ MICE 施設や付帯施設においては、県産材の活用（木材、陶器、和紙、染布等）等、地域産業の認知度向上や地域産業の維持・発展に寄与していく。

(オーバーツーリズム対策)

- ・ MICE 施設における各種行事により、一時的な渋滞が発生する事に対応し、駐車場料金のダイナミックプライシングや、近隣施設への来訪にインセンティブを与えるなど、退出時間のピークをずらし、混雑緩和を図る。

(文化の継承)

- ・ 国際学会や国際会議のレセプションの催しとして、地域に根付いた文化や祭等の要素を取り込み、地域の特徴を出すとともに、認知度の向上を図り、文化継承の機運を高める。
- ・ ユニークベニューとして文化施設を活用し、その収益で施設の維持・保全に要する財源として活用することで、文化施設の持続性に寄与する。

(次世代への継承)

- ・ MICE 開催を契機として、次代を担う若者や子どもたちに対し、MICE のテーマに触れられる機会を創出し、MICE への理解醸成と、MICE 開催レガシーとして意識を高め、持続可能な MICE 地域を形成していくとともに、MICE 関連の人材の担い手創出と育成を推進する。